

三觜八郎右衛門家住宅の特徴

- 【1】木造2階建て、1階は梁間4間・桁行9間、六間取りの平面。主屋は、オクとシチジョウ。さらに、2階にも床・棚を備えた座敷を置く。
広い土間とミセは、醤油の販売にも用いる。

【2】外観

屋根：切妻造、棧瓦葺。2階軒は出桁造。

1階：土間の入り口に大戸を用いる点は民家風。

その外側に素通しの欄間と格子戸を立てる点は商家風。

2階：大正8年の写真では、板張りの大壁や、アーチ形の鏡戸など洋風の意匠を備えていた。

【3】意匠

オミセ・オザシキ：大黒柱1尺6寸角(490mm角)。その上手の長者柱は1寸5分(345mm角)。指鴨居の背1尺9寸(580mm)、檜材。鏡戸は檜の玉杓。長者柱は、屋根の棟まで届く通し柱。総長10m以上。

オク・シチジョウ：柱・長押は松の良材。東側に床と棚を設け、内法長押の上に細身の天井長押を廻らし、千鳥の釘隠を打つ。床柱や欄干の框は黒柿、天井は玉杓の鏡版の食い違い天井。

襖絵に「丙戌六月写并讃、柳圃老人寧」【明治19年、福島柳圃(1820-89)作】とある。

2階座敷：2段の長押、欄干、天井は1階オクと共通するが、黒柿の多用、皮付材の使用など数寄屋風。